

理工学研究科（修士（工学）を取得する学位プログラム）アセスメントプラン

1 アセスメントの目的

学生や社会の状況を捉え、データに基づくカリキュラムおよび個々の授業、そして学習支援の改善を継続的に行うことを目的として、学修成果のアセスメントを行う。アセスメントにあたっては、直接評価と間接評価の双方を取り入れる。前者については成績や学籍異動の状況に関するデータを収集し、後者については全学生に対して毎年実施するアンケートを中心にデータを収集する。アンケートについては縦断的な調査を行うことにより、総体としての学生の状況だけでなく個々の学生における能力や学習状況の変化を追跡する。これにより、個々の学生に対する学習支援の改善を行う。さらに、成績評価の結果や学籍異動の状況に関するデータと併せて分析することで、休学・中退や成績不振の予測などへの活用を図る。

2 達成すべき質的水準

達成すべき質的水準は、理工学研究科のディプロマ・ポリシーにおいて定めている。ディプロマ・ポリシーにおいては、「理工学分野における高度な知識・専門技能」・「学識・論理的思考力・俯瞰的視野に基づく課題探求力・解決力」・「高い教養と学識からなる豊かな人間力・発信力」を涵養し、「柔軟な思考と高い適応力のもと、変貌する社会と地球環境を見据え、今日の科学・技術を継承し発展させるのみならず、未来のために新たな価値の創造・実現に貢献できる理工系人材」を育成することを目指している。修士論文については、リサーチ・ルーブリックにおいて研究の位置づけと目的の明確さ、独自性、科学的検討のレベル、プレゼンテーション能力などの評価項目を評価し、一定以上のレベルに到達したものを合格としている。

3 アセスメントの方法

No.	名称	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	手法	実施責任部署	結果の活用方法
1	修了予定者アンケート	毎年 1-3 月	M2	DP 達成状況、愛大学生コンピテンシーの習得状況	Web アンケート	教育・学生支援機構	教育・学生支援機構が教育学生支援会議に報告し、研究科のカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
2	授業アンケート	毎年 2 回	M1, M2	学習の状況、授業の理解度、授業の満足度など	紙媒体・または Web アンケート	各コース	結果をまとめて、授業担当者にフィードバックし、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
3	学生代表者との意見交換	毎年 1 回	M, D	学習環境の改善及びキャンパスライフの向上に関する事項など	意見交換	工学部学生支援委員会	理工学研究科（工学系教育プログラム）における教育の点検・改善、学生支援活動の充実、第三者評価の資料として活用
4	修了生アンケート	毎年 1 回	修了 3 年後の社会人	現在の仕事内容、在学中に身に付いた能力、大学院で提供してほしい科目など	Web アンケート	教育・学生支援機構	理工学研究科（工学系教育プログラム）における教育の点検・改善、学生支援活動の充実、第三者評価の資料として活用
5	就職先企業等へのアンケート	3 年に 1 回程度の予定	修了生の就職先	修了生に求める能力、理工学研究科の DP が身に付いているかどうか、大学院教育に求めるものなど	紙媒体・または Web アンケート	理工学研究科（工学系）	大学院研究科（工学系教育プログラム）における教育の点検・改善、学生支援活動の充実、第三者評価の資料として活用
6	修士論文発表会	毎年 2 月	M2	研究内容のプレゼンテーションと質疑応答	発表会形式	各コース	リサーチ・ルーブリックを用いて、数項目で審査・評価し、修士論文の可否を決定する
7	教員学生懇談会	毎年 2 回	M1, M2（各学年 8 名程度）	前期、後期中に受講中の講義についての要望、感想について、教員が聞き取り調査	インタビュー調査	機械工学コース	結果をまとめて、授業担当者にフィードバックし、授業の自己点検と改善に活用

8	シラバス点検	毎年1回 (2月頃)	教務委員会	キーワード、到達目標とDPの関係、授業スケジュール、授業時間外学習に関わる情報、成績評価方法などについて点検する	シラバスの原稿	工学部教務委員会・授業担当教員	教務委員会でシラバスの原稿を点検し、記載に不備がある場合、授業担当教員に加筆・訂正を求めることで教育の自己点検と教育改善に活用
9	成績分布状況調査	毎年2回 (11月頃と3月頃)	教務委員会	各学期に開講された授業科目の成績分布一覧を確認する	科目別成績分布一覧表	工学部教務委員会	教務委員会で科目別成績分布一覧表を確認し、適正に成績評価がなされているかどうか点検することにより、教育の自己点検と教育改善に活用
10	アカデミックプレゼンテーション、修士特別研究1・2における評価	2年間で各1回	M1, M2	理工学研究科で統一した評価基準により、DPの達成度、能力・スキルの到達度を評価する	ループリック	主指導教員、副指導教員、インターディシプリナリー・アドバイザー	評価結果を教員間で共有し、研究指導および教育改善に活用